

「新しい東北」官民連携推進協議会

令和元年度

宮城県意見交換会(第3回)

事務局提出資料

「新しい東北」官民連携推進協議会事務局
2020年2月17日

1. 意見交換会の概要
2. 「実践の場」企画背景
3. 「実践の場」概要
4. 「実践の場」開催報告
5. 次年度扱うテーマのアイディア
6. 意見交換

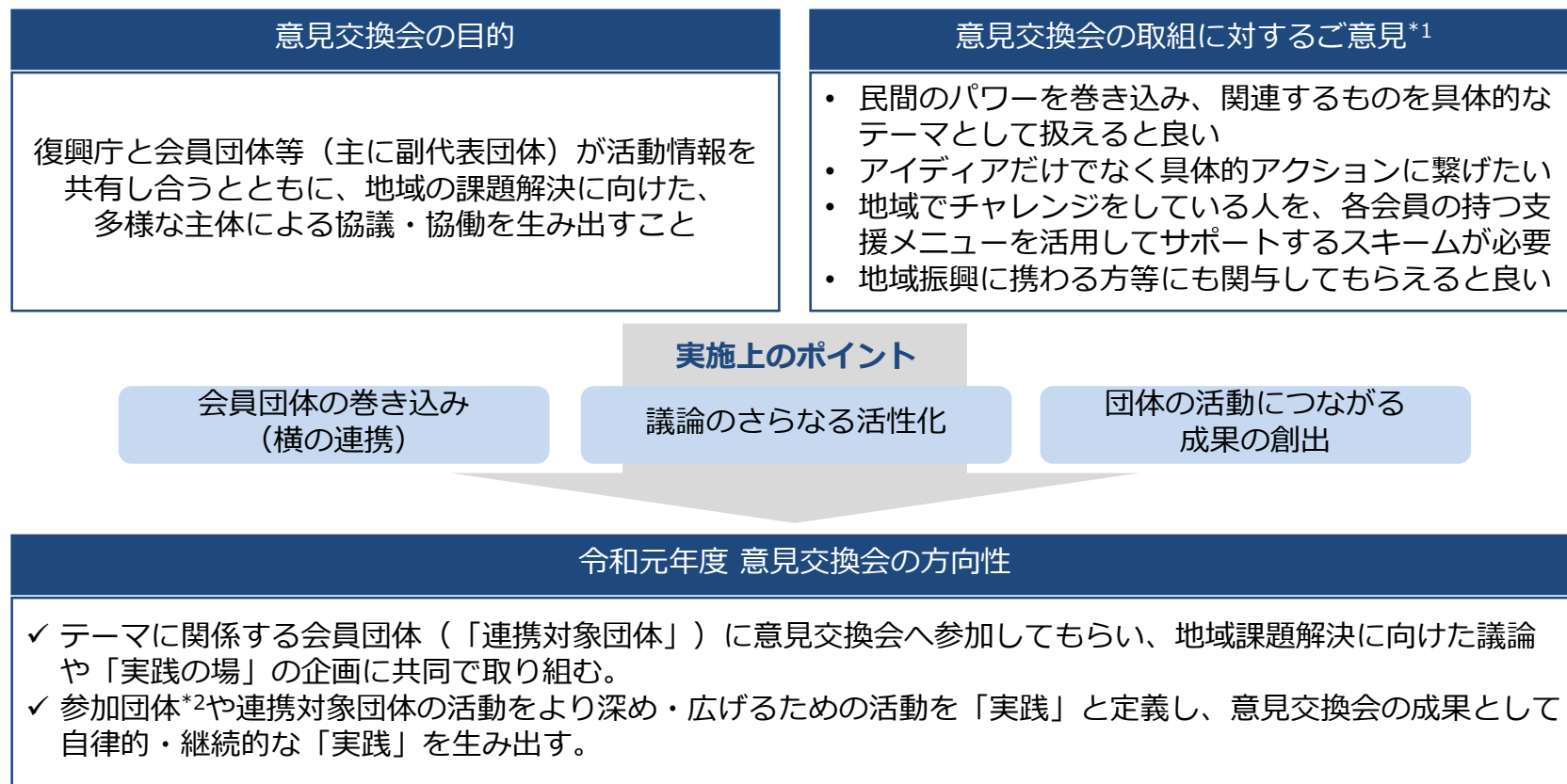
「実践の場」の振り返りと次年度の取組

<参考資料>

- 岩手県「実践の場」概要
- 福島県「実践の場」概要

本協議会では意見交換会を、復興庁と会員団体等（主に副代表団体）が活動情報を互いに共有し、地域の課題解決に向けて協議・協働を生み出す場と位置付けています。

今年度は特に、副代表団体以外の会員団体の巻き込み・議論の活性化・団体の活動につながる成果創出に注力します。

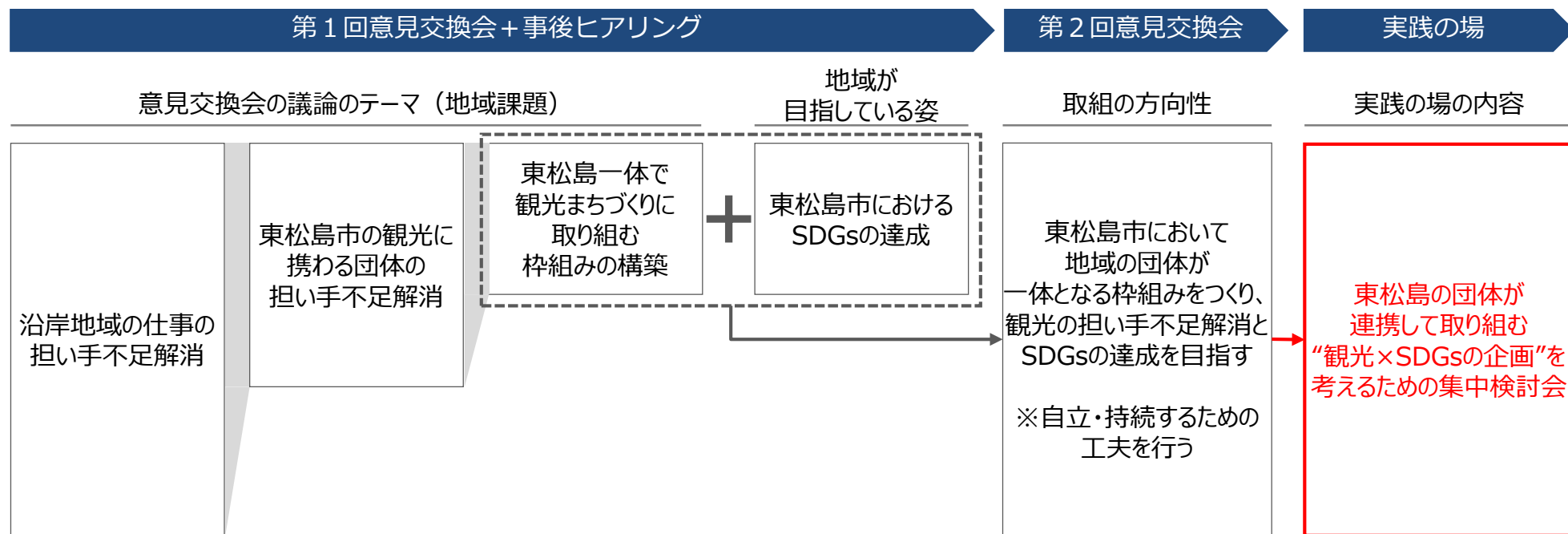


*1: 3県の第3回意見交換会内の発言を一部引用

*2: 副代表団体およびオブザーバーとして参加いただく団体

● 2. 「実践の場」企画背景

第1回・第2回の意見交換を通じて、東松島の団体が一体となる枠組みをつくり、観光の担い手不足解消とSDGsの達成を目指すための集中検討会を企画しました。



● 3. 「実践の場」概要

意見交換会やその後の登壇者との調整を踏まえて、以下の内容で「実践の場」を開催しました。

開催日時	2020年1月24日（金）15:30～18:00	開催場所	東松島市（矢本西市民センター）
タイトル	牡蠣で東松島を盛り上げよう！ ～牡蠣を観光まちづくりのシンボルに～		
参加対象者	東松島市の観光産業に関心のある市民・民間団体 特に以下のような方におすすめ ・ 牡蠣を使った商品開発や観光ツアーの企画に興味のある方 ・ 東松島の魅力をもっと多くの人に知ってもらいたい方		
実施内容	1. 参考情報共有 議論の参考になる情報を参加者に対して共有する。 ・ 観光を取り巻く市場について（石巻圏観光推進機構より） ・ 東松島の観光、SDGsについて（東松島市より） ・ 東松島の牡蠣について（宮城県漁業協同組合 鳴瀬支所 牡蠣部会より） 2. ディスカッション 「東松島の牡蠣を用いた観光企画」をテーマとしつつ、サブテーマ別に7テーブルに分かれて、以下の①～④について検討する。特に④の検討を通じて、後日も活動が自立・継続することを目指す。 【①観光企画の具体案 ②関連するSDGsの指標 ③当該企画のキャッチコピー ④直近の実行計画案】 3. 最終発表 各チームで検討した①～④の内容を、全体に対して共有する。他のテーブルからは、深掘りや内容改善のための質問・コメントを伝えることで、全体での意見交換や相互理解の促進を目指す。		

● (ご参考) 当日の様子



● 4. 「実践の場」開催結果 — 参加者の特徴

「実践の場」では、ディスカッション参加者（以下、「参加者」という）4～5名、チームファシリテーター1名、チームサポーター1名、市職員で構成されるチームを7つ設けました。
市役所・参加者の紹介や公募により参加者を集め、市内の事業者や市民など合計31名に参加いただきました。

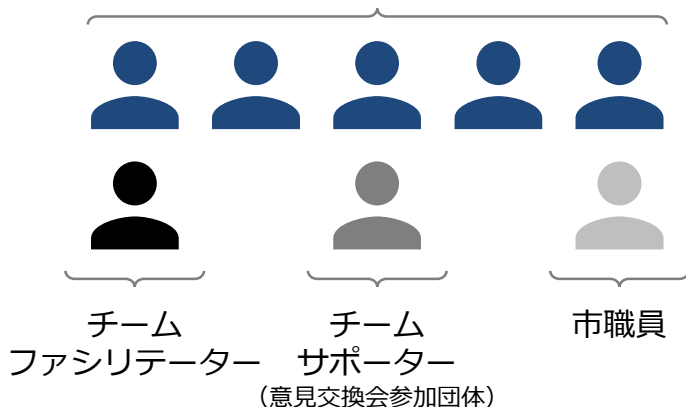
【チームの構成】

チーム分け

- ・ 生産者と消費者を直接つなぐ商品づくり〔チームA,B〕
- ・ 東松島の美味しい牡蠣を活かした体験と商品づくり〔チームC〕
- ・ 東松島の自然を活かした体験とお土産づくり〔チームD,E〕
- ・ 気軽に来て、食べて、買える 観光インフラづくり〔チームF〕
- ・ 東松島に何度も行きたくなる・住みたくなるツアーづくり〔チームG〕

各チームの構成員

ディスカッション参加者
4～5名



【参加者の属性】

事業者※

- ・ 水産業（漁業） 6名
- ・ まちづくり等 3名
- ・ 食品製造業 3名
- ・ 飲食業 2名
- ・ 観光業 2名
- ・ 宿泊業 2名
- ・ 農業 2名
- ・ 牧場運営 2名
- ・ デザイン業 1名
- ・ バス業 1名
- ・ 小売業 1名
- ・ 不動産業 1名
- ・ 和装着付け 1名
- ・ ハンドメイド 1名

その他

- ・ 地域おこし協力隊 1名
- ・ 市民 1名
- ・ 市外の学生 1名

合計 31名

●（ご参考）参加者の事前調整（募集～説明～チーム分け）

参加者等から候補者を紹介いただく方法で主に参加者を募集しました。参加者*¹に対しては企画趣旨・当日の流れ・アウトプットイメージを事前に説明するとともに、現在の事業や今後やりたいこと等をヒアリングし、議論の目線が合うチーム分けになるよう工夫しました。

参加者の募集

連携対象団体*²含む参加者や市職員から候補者を紹介いただく。

（その他、市報や協議会ポータルサイト、Fw:東北 Fan Meetingサイトでも公募）

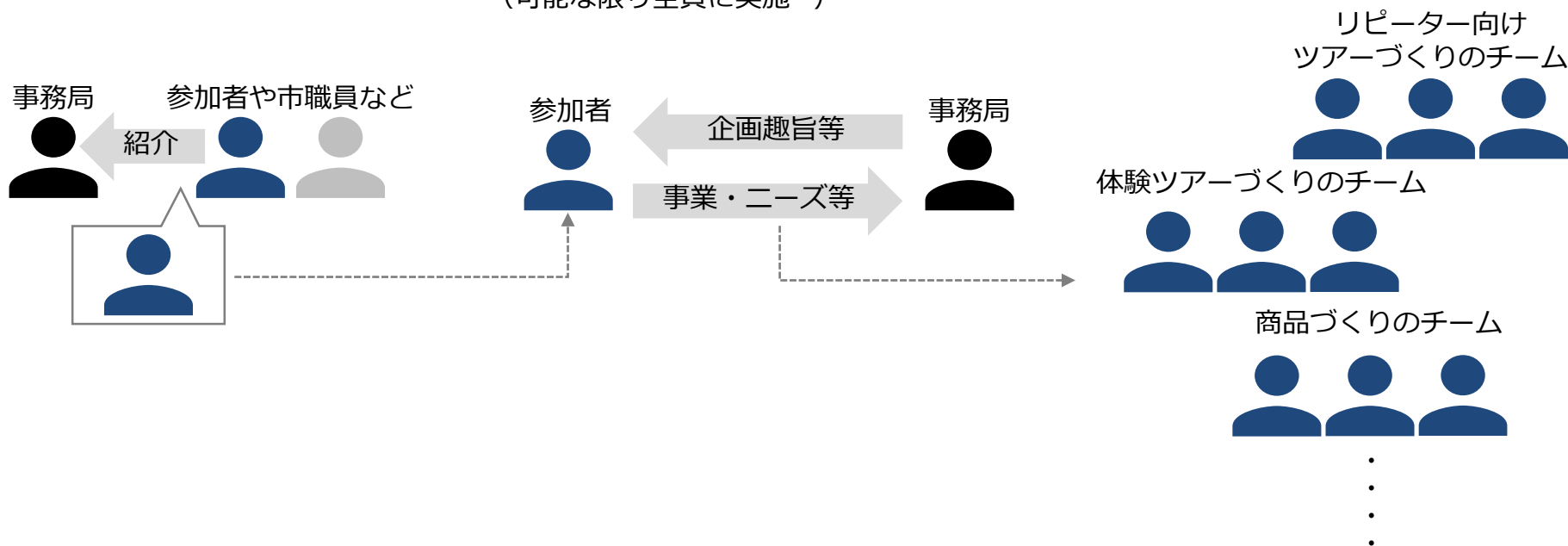
参加者への事前説明

企画趣旨・当日の流れ・アウトプットイメージ等を説明し、参加者と認識を合わせる。

また、参加者の現在の事業・今後やりたいこと・話してみたい人等についてヒアリング。
（可能な限り全員に実施*¹）

チーム分け

参加者の関心事を反映して、チームごとのサブテーマやメンバーを決定。

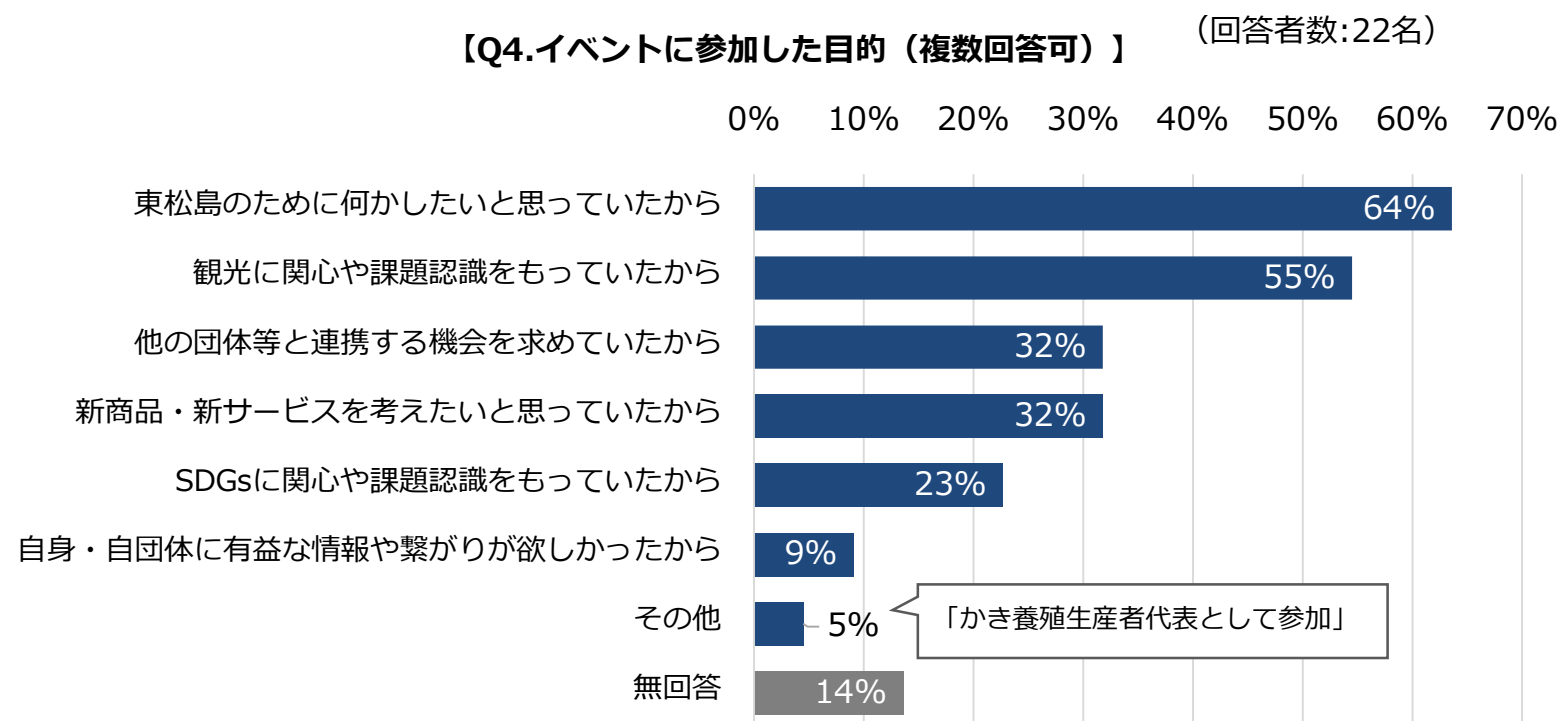


*1: 開催直前や当日に参加が決まった方、市の判断で事前説明は不要と判断された方を除く

*2: 東松島市役所、貴凜庁株式会社、東松島あてなしょっづまちんど

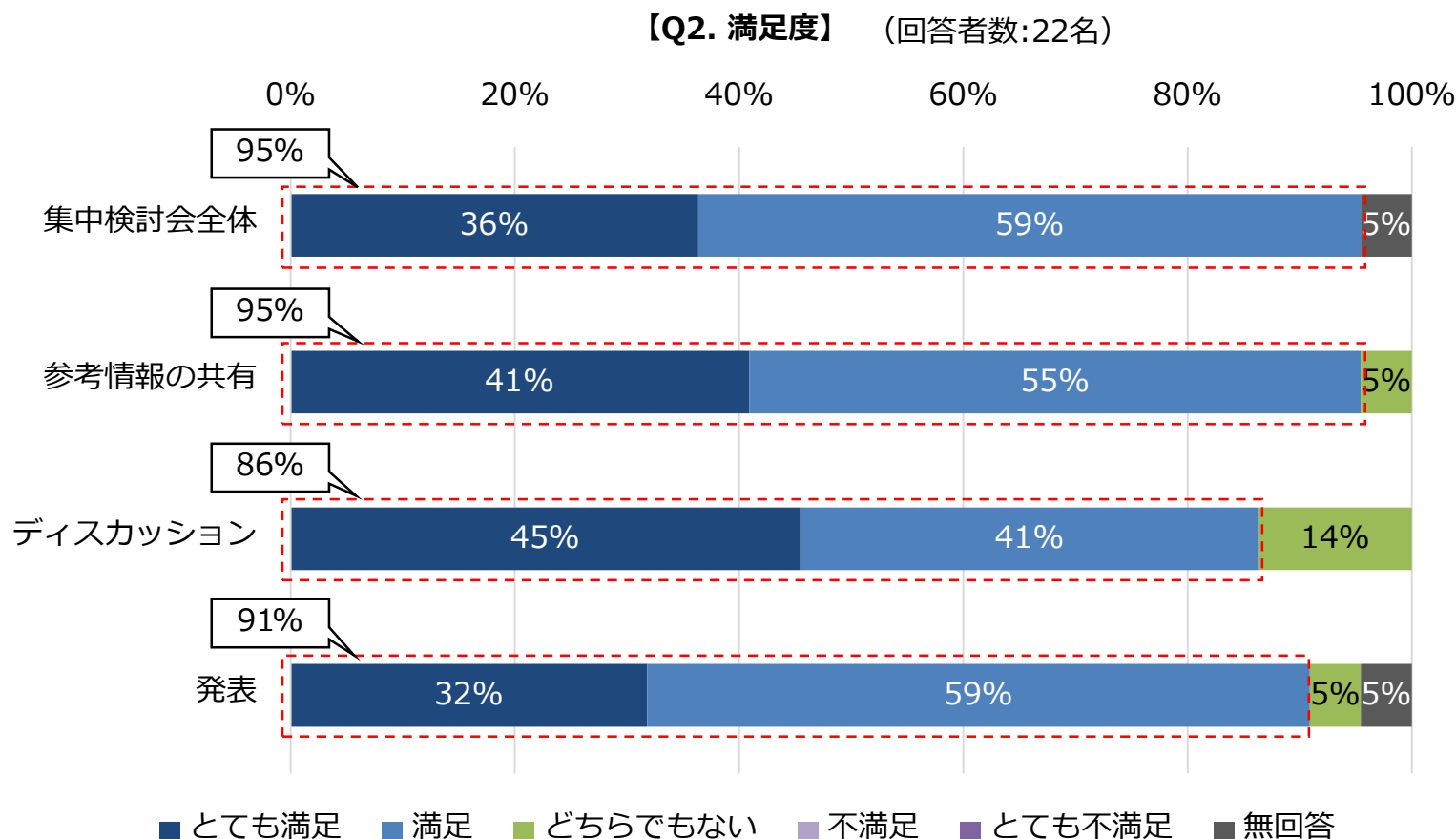
● 4. 「実践の場」開催結果 — 参加目的

参加目的は「東松島のために何かしたいと思っていたから」（64%）が最多で、次いで「観光に関心や課題認識をもっていたから」（55%）、「他の団体等と連携する機会を求めていたから」「新商品・新サービスを考えたいと思っていたから」（共に32%）の順に多かったです。



● 4. 「実践の場」開催結果 — 満足度

満足度に関して「とても満足」「満足」と回答した方が、集中検討会全体および参考情報の共有では95%、ディスカッションでは86%、発表では91%でした。



● 4. 「実践の場」開催結果 — 満足度（頂いたコメント）

具体的・積極的に検討できた、他者とのディスカッションが刺激になった、楽しかった、といった満足度を裏付けするコメントを多く頂きました。

【Q3.満足度の理由（自由記述）】 ※要約を掲載

（回答者数:17名）

具体的・積極的に
検討できた

- ・ アイデアベースのその先の実装まで計画されているところが大変満足
- ・ ある程度、「何を誰が」まで具体的なイメージができた
- ・ 予想よりも積極的な話合いが出来た
- ・ 参加の皆さんの主体性が良かった

他者との
ディスカッションが
刺激になった

- ・ あまり発言する事が出来なかったが、大変勉強になった
- ・ 自分だけでは思いつかないような意見がたくさん聞けた事、自分の意見を引き出してもらえた事、とても良い経験になった
- ・ 自分の考える観光とちがう意見が聞けた
- ・ 市のことをみんなで話し合い、未来を自分たちで作っていく取組は素晴らしい
- ・ 他業種の方々と場を共有し、意見交換ができた

楽しかった

- ・ 幅広い事業者の方と東松島のカキについて語れたのが楽しかった
- ・ 地元を活性する話を沢山できて楽しかった

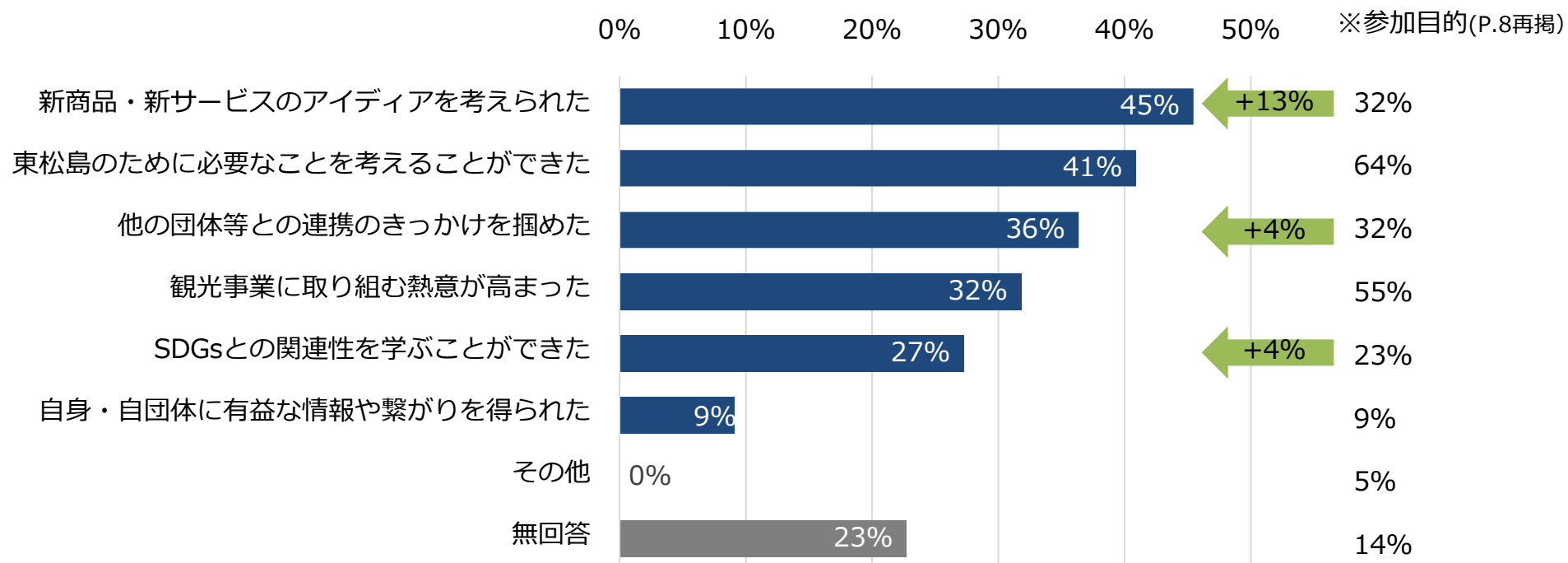
その他

- ・ グループ分けが話し合いの難しさを変えていた気がする

● 4. 「実践の場」開催結果 — 効果測定の結果

4割程度の参加者が「新商品・新サービスのアイデアを考えられた」「東松島のために必要なことを考えることができた」「他の団体等との連携のきっかけを掴めた」と回答しました。「新商品・新サービスのアイデア…」「他の団体等の連携…」については参加目的として回答した参加者よりも多くの人が変化を感じたと分かります。

【Q7.参加後の変化・気づき（複数回答可）】（回答者数:22名）



● 4. 「実践の場」開催結果 — 参加者からのご意見

参加者からは開催回数や議論の工夫に関する意見が挙がった他、取組の発展やアイデアの実現に向けた期待の声も寄せられました。

【Q6.集中検討会に関するご意見・ご感想（自由記述）】（回答者数:9名）

開催回数や 議論の時間について	<ul style="list-style-type: none">・ 今回出したアイデアを具体化するまで何回か開催した方が良い・ 課題のレベル感を統一したかった。議論時間をもっと欲しかった。
議論の工夫について	<ul style="list-style-type: none">・ パワーポイントでの説明に使用した資料もしっかりと目を通したかった・ ファシリテーター始め、グループのみなさんのおかげで楽しく取り組む事が出来た。情報の共有もとてもタメになった。
取組の発展や アイデアの実現について	<ul style="list-style-type: none">・ これを機に、東松島市の発展につながると良い・ 東松島の観光、食べ物の一休した物で一個でも商品化・形に出来たらと思う
その他感想	<ul style="list-style-type: none">・ 機会があればまた参加したい・ 楽しかったし、学びになった・ 大変刺激になった

● 5. 次年度扱うテーマのアイデア

次年度の意見交換会テーマ「東日本大震災10年目に向けて」

次年度は震災からの9年間を振り返り、復興・創生期間後を展望する
取組を意見交換会で企画・実践していきたい

【令和2年度 予定（案）】

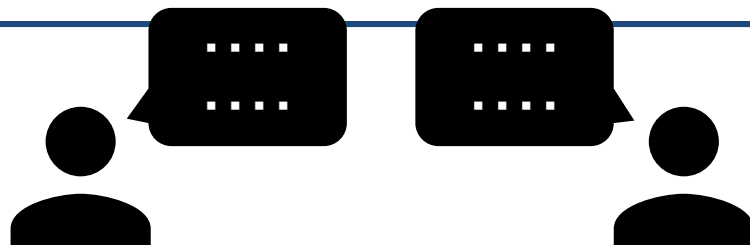
6月頃	第1回 意見交換会：イベント内容について具体的な議論を行う
秋	復興シンポジウム（仮）：政府主催、東京開催
	実践の場イベント：協議会主催、被災3県で開催

● 6. 意見交換：「実践の場」の振り返りと次年度の取組

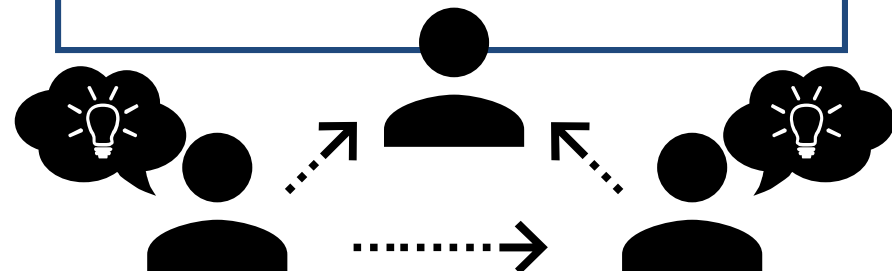
① 開催結果と次年度の取組みを踏まえて、今回の「実践の場」の良かった点・改善点・継続に向けた示唆についてご意見ください。

② 東日本大震災10年目に向けて、次年度の意見交換会ではどのような取組を行うとよいか、各団体の取組（予定や案も含む）を参考にしたアイデアについてご意見ください。

各団体が東日本大震災10年目に向けて
実施していること、
実施予定のこと、
実施したいと思っていること、を共有



他団体の取組との連携も含めて
できそうなこと・やってみたことの
アイデアをブレストする



参考資料

● 岩手県「実践の場」概要

岩手県では「三陸沿岸における地域経済の担い手支援」をテーマとして意見交換を行った結果、三陸沿岸の経営者・次世代リーダーを対象とした事業成長セミナー・相談会・交流会を開催することとなりました。

開催日時	2019年11月25日（月）13:30～16:20	開催場所	大船渡市（市民交流館カメラホール）
タイトル	さんりく事業成長セミナー・交流会 ～オール岩手で経営層をサポートします！～		
企画趣旨	岩手県三陸沿岸の担い手不足解消に向けて、企業やNPOなどの現役経営者および次世代リーダー（起業検討中の方や先代からの事業承継を控えた方など）に対して、行政と民間支援機関が連携して事業成長を支援する取組を行うこととした。数多くある支援策の特徴や活用事例を知ってもらうことを目的とした、各機関の支援策を紹介するセミナーや相談会と、業界・セクターの枠を越えた経営層の繋がりをつくるための交流会を開催する。		
参加対象者	岩手県沿岸地域の経営層（経営者・次世代リーダー） ※沿岸地域で今後起業や支店開設等を検討している方も参加可能		
実施内容	<p>【第1部 セミナー】 テーマごとに、支援のスコープ・アプローチの異なる団体が、支援策や事例を紹介。 ① 魅力発見～発信～人材確保（岩手県プロフェッショナル人材戦略拠点） ② 資金調達（いわぎん事業創造キャピタル、岩手県復興局） ③ その他多様な支援策（いわて連携復興センター、岩手大学）</p> <p>【第2部 前半：支援機関と経営層の相談会】 支援機関2,3団体がチームになって15分ずつ3テーブルを回り、 各テーブルの参加者が抱えている事業の悩みややりたいことについて自由に相談。</p> <p>【第2部 後半：経営層同士の交流会】 テーブルを離れてフリースペースで参加者同士（又は参加者と支援機関）が交流。</p>		
登壇者 （順不同）	<ul style="list-style-type: none"> 岩手県 復興局 佐賀様（伊五澤様の代理） 岩手県 沿岸広域振興局 横澤様 岩手銀行 山崎様、川村様 いわぎん事業創造キャピタル 及川様 岩手大学 今井様 いわて連携復興センター 葛巻様、瀬川様、高田様 岩手県プロフェッショナル人材戦略拠点 齊藤様 大船渡商工会議所 小原様 復興庁 益満、犬伏 		

● 福島県「実践の場」概要

福島県では「福島県での暮らし方・働き方に関する理解促進（魅力付け）」をテーマとして意見交換を行った結果、県内の高校・大学生向けに、福島での働き方を広く知ってもらうイベントを開催することとなりました。

開催日時	2019年12月8日（日）13:30～16:00	開催場所	福島市 （福島市子どもの夢を育む施設「こむこむ」）
タイトル	ふくしまキャリア探求ゼミ ～自分らしいキャリアデザインを考えよう～		
企画趣旨	福島県では若者の県外流出が地域課題として挙げられ、昨年度から引き続き、福島県での暮らし方・働き方に関する理解促進（魅力付け）をテーマに取組を行うこととした。 身近で地道に活動されている方も含めて昨年よりも幅広くゲストを迎え、県内在住の高校生・大学生をメインターゲットとして、福島での働き方を知ってもらうための場を企画した。		
参加対象者	福島県内の高校生および大学生（福島県出身で県外在住の学生や、学校教員等の社会人の参加も可能） 特に以下のような方におすすめ ・ 進学や就職など将来のことをそろそろ考えようと思っている方 ・ 楽しく働いている話を聞いて、勉強や就活へのモチベーションを上げたい方		
実施内容	1. アイスブレイク、登壇者紹介 参加者同士が自己紹介や参加理由を話し、アイスブレイク。その後ファシリテーターから登壇者7人について紹介。 2. 車座トーク（2回） 登壇者1名を参加者3～6名が囲む車座形式のトークを30分×2回実施。 一方的に話すのではなく双方向に、そして近い距離で、対話することを目指す。 3. 個人ワーク 参加者それぞれの言葉やイラストで、自身の過去・現在・未来（3年後/10年後）を表現するワークを実施。 車座トークで聞いた経験談やアドバイス、自分が日々思っていることを改めて整理し、咀嚼するための時間。		
登壇者 （順不同）	<ul style="list-style-type: none">株式会社東邦銀行 石川 淳一 様株式会社タカワ精密 渡邊 光貴 様株式会社関美工堂 関 昌邦 様ファームつばさ 清水 大翼 様株式会社Blue porte 青戸 明美 様弁護士法人いわき法律事務所 菅波 香織 様一般社団法人Switch 久保田 健一 様		